するはずである．本書の読者は「情報基盤技術としての“OS技術”についての『ホワットツー』を身につけている高度専門技術者」になれる．

「情報基盤技術としての“OS技術”に関する教科書」として，本書は，次の4章立てで構成している．

- 第1章では，「OSの役割や目的，技術史上での位置付け，および，それらを実現するための基本原理と基本機能」について概説する．
- 第2章では，「コンピュータのハードウェア装置であるプロセッサ，および，ソフトウェアの機能単位であるプロセスの時間的な管理」について詳説する．
- 第3章では，「コンピュータのハードウェア装置であるメインメモリとファイル装置を併せたメモリ上でのソフトウェアの管理，特に，空間的な管理」について詳説する．
- 第4章では，「コンピュータのハードウェア装置である外部装置，特に，入出力装置とコンピュータネットワークを含む通信装置，の管理および制御」について詳説する．

“OS”に関する重要で核となる術語は，本文の各所で，「定義」として抜き書きしている．また，各項に適宜「まとめ」を小項として置き，読者の学習の一助としている．なお，“OS”以外の情報基盤技術に関する術語については，「参考」という囲み記事にして本文の各所に置いてある．さらに，補足的な説明については，本文の論旨や展開を妨げないように，「注意」として切り出してある．

いつもながら，丁寧に査読をして下さる 同僚・平田博章 氏 に深謝する．
最後に，いつも家族として励まし応援してくれる 妻・真木子と2人の息子と2人の娘に 感謝する．

2007年 盛秋
京都・松ヶ崎あるいは岩倉にて

柴山　潔
(kiyoshi-s@h9.dion.ne.jp)